

” JAID/JSC 感染症治療ガイド 2011 “のポイントと熱病との対比  
司会のことば

<sup>1</sup> 東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター、<sup>2</sup> 信楽園病院

清田 浩<sup>1</sup>、青木 信樹<sup>2</sup>

本年 3 月に刊行された JAID/JSC 感染症治療ガイド 2011 は抗菌薬使用のガイドライン 2005（日本感染症学会/日本化学療法学会）の改訂版として位置づけられているが、研修医やレジデントなどが臨床現場で簡単に見やすくするように、解説を簡略化したポケット版のスタイルとしたものである。米国のガイドラインとして作成された熱病はわが国でも汎用されているが、わが国の保険適応外の抗菌薬の種類、用量が推奨されていることが少ない。また、米国における原因微生物の薬剤感受性がわが国でのそれらと異なることがあり、わが国で熱病と同様の治療が不適切であることもある。本シンポジウムでは、各科領域の感染症について JAID/JSC 感染症治療ガイド 2011 を熱病 2012 と対比しつつ概説する。